

# 薬理学実習

科目責任者 藤田 朋恵  
学年・学期 2学年・2,3学期

## I. 前 文

本科目では、基礎と臨床の項目に分かれる。基礎の項目では、ヒト由来の細胞、実験動物から摘出した臓器、Virtual Realityの仮想動物、あるいはシミュレーションソフトウェアの仮想動物に薬を投与し、生細胞あるいは生体の薬に対する反応を観察する。薬が作用する受容体、薬の用量反応関係、薬の作用機序、薬の有害作用等を学ぶ。臨床の項目では、カフェインを用いたランダム化プラセボ対照二重盲検比較試験に参加し、薬の薬効評価を学ぶ。また、課題症例について医師あるいは患者・家族役に分かれて薬物治療のインフォームド・コンセントのロールプレイをし、薬の臨床適用、注意すべき有害作用や相互作用、年齢・妊娠・臓器障害等を考慮した薬物治療を学ぶ。これらは薬理学で学んだ知識をさらに実学レベルにステップアップしていくものである。

## II. 担当教員

教授	藤田 朋恵	薬理学
准教授	林 啓太郎	薬理学
学内准教授	相澤 直樹	薬理学
学内講師	竹井 元	薬理学
助教	東 覚	薬理学
非常勤講師	渡辺 和人	明治大学 研究・知財機構 客員研究員
非常勤講師	柳田 俊彦	宮崎大学 医学部 看護学科 臨床薬理学 教授
非常勤講師	堂前 真理子	獨協医科大学 医学部

## III. 一般学習目標

・基本薬の作用・有害作用と機序、薬効評価時の試験デザインや統計学的考え方、薬物治療について理解する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 中枢神経作用薬、平滑筋作用薬、循環器作用薬の用量反応関係と受容体、薬理作用を理解し、説明できる。
- 2) 抗腫瘍薬の作用機序を理解し、説明できる。
- 3) 薬効評価と患者薬物治療を理解し、説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	9	30	水	4	薬理学ロールプレイ 説明と同意	全 教 員	6
2		30	水	5	カフェインの臨床薬理 説明と同意	全 教 員	6
3	10	26	月	4	オリエンテーション	全 教 員	6
4	10	27	火	4	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
5	10	27	火	5	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
6		27	火	6	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
7		27	火	7	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
8	10	28	水	4	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
9		28	水	5	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
10		28	水	6	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
11		28	水	7	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
12	10	29	木	4	薬理学ロールプレイ事前準備	全 教 員	6
13		29	木	5	薬理学ロールプレイ事前準備	全 教 員	6
14	10	30	金	4	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
15		30	金	5	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
16		30	金	6	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
17		30	金	7	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
18	11	4	水	4	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
19		4	水	5	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
20		4	水	6	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
21		4	水	7	中枢神経作用薬, 平滑筋作用薬, 循環器作用薬, 抗腫瘍薬	全 教 員	3, 4
22	11	6	金	4	カフェインの臨床薬理	全 教 員	4
23		6	金	5	カフェインの臨床薬理	全 教 員	4
24		6	金	6	カフェインの臨床薬理	全 教 員	4
25		6	金	7	カフェインの臨床薬理	全 教 員	4
26	11	9	月	4	薬理学ロールプレイ	全 教 員	2, 3, 4, 5
27		9	月	5	薬理学ロールプレイ	全 教 員	2, 3, 4, 5
28		9	月	6	薬理学ロールプレイ	全 教 員	2, 3, 4, 5
29		9	月	7	薬理学ロールプレイ	全 教 員	2, 3, 4, 5

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（60～70%）、口頭試問・レポート（30～40%）

特別な理由がない限り、単位取得には実習の全出席が必須である。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書：薬理学シラバスに記載
- 2) 実習書：2026年度薬理学実習書，獨協医科大学薬理学教室（実習前に配布する）
- 3) 参考書：薬理学シラバスに記載

#### VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：薬理学講座集会室（総合教育研究棟10階）月～金曜日 9：00～17：00

- ◆随時受け付けます（藤田）。
- ◆実験中以外は随時受け付けます（林，相澤，竹井，東）。

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは評価後，LMSより返却する。  
定期試験結果のフィードバックはしない。

#### XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

#### XII. コアカリ記号・番号

PS-01-03-31, PS-01-03-32, PS-01-03-33, CS-01-01-01, CS-02-04-02, CS-02-04-04, CS-02-04-05, CS-02-04-06,  
CS-02-04-07, CS-02-04-10, CS-02-04-12, CM-01-01-05, GE-01-03-01, GE-01-04-06, RE-03-03-02, RE-05-02-01